2019年4月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第507号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

## 梓会出版文化賞特別賞を授賞して──★☆★

# ひつじ書房という出版社のこれまでとこれから

文／ひつじ書房　編集長・松本功

### 創業と経緯

ひつじ書房という出版社は、日本語の研究を核として、言語学の研究書を刊行している学術出版社です。日本文学の研究書も刊行していますが、言語学が中心です。1990年に創業し、今年の2月には29周年を迎えました。経営的にははかばかしくはない学術書を出版して潰れずに今まで持ったなというのが、正直なところです。大学生向けの教科書をいくつか刊行していることと様々な出版助成金のおかげで生き延びているといえるでしょう。もちろん、読者の方、著者の方々のおかげです。創業した1990年という年は、ベルリンの壁が壊された年の翌年です。時代の変わり目ですが、出版業界としては右肩上がりの時代はほぼ終わり、すでに規模は縮小し続けている時代でした。

創業の10年前くらいから、日本経済は好調で、海外から多くの留学生たちが来るようになっていました。日本語教育が盛んになっていましたが、従来の国語学は、留学生への日本語学習の要望に充分に対応することができませんでした。外国人に日本語を教えることは主な目的ではなかったからです。外国人が学習できるように日本語を教える必要が生まれましたが、国語学は主に歴史的な言語を扱っていたこともあり、対応できなかったのです。とともに、従来、日本語は大学では文学部の国語国文学科の中の国語学という分野で研究されていました。それが、日本語教育の後押しもあり、日本語を言語として研究する動向が生まれ、英語学や諸言語学との交流が活発化し、国文学の下請的な位置から、学問としては独立していく方向になりました。さらには、国語教育からも離れ、日本語学という学問に生まれ変わりました。このような大きな変革の時期に、新しい言語研究の誕生を後押ししたいと思い、創業しました。私は、若干29歳でした。

受賞の挨拶をする松本功氏

ひつじ書房は新しいことに取り組んできました。1995年には自社のホームページを持ち（文系の学術出版社でははじめて）、ネットで情報がやり取りされることを考えて、「投げ銭システム」というアイディアを提唱したこともあります。松本はビジネス支援図書館推進委員会を作る創立メンバーでもあり、言語学の出版社の横断的な組織である言語学出版社フォーラムも創立メンバーの1社です。21世紀になり、10年が過ぎた2003年から4年続けて、刊行しました研究書が、新村出賞を受賞しました。言語学の出版社としては、この時期に一定の評価をいただけたのではないかと思います。

### 変わっていく人文学

将来のことを述べます。現在、学術政策の中で文科系学問に対してネガティブな状況にあります。学術出版社も、文科系の学問へのネガティブな風潮の中で、苦境の中にいます。どう乗り越えていくのか、ということが問題です。現在の学術政策には、問題がありますが、ここではそのことについては触れません。学術的書籍というものが、メディアとしてどうなのか、ということと、言語学を含んだ人文学の内容がどう変わっていくのか、ということについて考えてみたいと思います。

言語学を含んだ人文学といいましたが、学問として従来のかたちの研究でありつづけることができるのか、すでにあり方は変わりつつあります。今の時代でも、書籍として優れた内容であれば人文系でも大きなセールスをあげている書籍はあります。それは認めますが、少し以前から、従来とは違う人文学のあり方が起こっています。たとえば、祭りの伝承ということを研究してきた民俗学という研究があります。「聞き書き」というのが、これまでの大事な方法であり、高く評価できるものです。とともに、現在は違った手法で研究することも可能になってきています。聞き書きならぬ、「撮り書き」。ビデオカメラを回して、行っていること、先輩が後輩に教えることとか、祭りの準備として行っていることを撮ることができます。複数のビデオカメラ

を回して、それを同期することもできます。同じ時間に何をどうやっていたかを記録できます。その記録を分析するソフトも生まれています。動画を記録して、分析できるのなら、映画やアニメ、演劇、ダンス、音楽などもこれまでとは違った分析ができます。民族誌的な研究、フィールドワークなどの研究が変わっていくのではないでしょうか。これは、言語学にも大きな影響を及ぼすことになります。話している内容だけでなく、身体動作や表情、テンポ、音調、沈黙なども、研究に入ってきます。ちなみに、その分析ソフト（E-lan）の入門書を近く刊行します。

コンピュータを使うことで、画像などのパターンを研究することもできます。大量のデータを扱うことによって、今まで発見できなかった特徴を見つけることができつつもあります。今まで、研究できなかった「心」や「感情」についても、ロボットに「心」や「感情」があるかのように見えるシュミレーションをさせることによって、これまで研究ができなかった「心」や「感情」についても、ある部分、研究ができるようになりつつあります。

従来の研究方法の価値は失われることはありませんが、新しい研究は、人文科学の分野にも大きな存在となります。人文学自体も変化します。そういう研究になっていく場合、これからの書籍にどういうありかたをもたらすのでしょう。動画や膨大なデータを、これまでの書籍に盛り込むことは困難です。アプリと書籍の中間体のような新しい書籍が求められることになるのかもしれません。あるいはネットと連携した書籍かもしれません。

## 新しい人文学と書籍

さらに、新しい人文学の内容は書籍という形態に合致するのか。事実の発見と研究成果の公開ということであれば、online 学術雑誌というあり方が、専門家にとってはメリットがあるでしょう。書籍は、複数の論文をただ集めたというものではなく、作品という性質を持っています。この価値を若い研究者は、理解してくれるのでしょうか。研究成果の公開の早さを重視して、実験的な研究内容の公開が書籍とは合いにくいと思われてしまうと、これからの人文学研究者は、書籍を発表する媒体と思わなくなるかもしれません。できれば、これは避けたい。新しい人文学も、書籍として面白みがあるかたちでまとめられなければならないと考えています。書店にも、新しい人文学を棚に並べてもらいたい。新しい人文学を、読者とともに受容していく必要があると思います。それは、従来の人文学とは違った面白さを受け入れることであるので、困難が伴うでしょう。

授賞式会場での展示作品

動画やコンピュータを使った研究ではなくても、従来の研究観とは違った研究も生まれています。1つの例をあげますと言語学の中で「発話権」の研究というのが、はじまっています。説明しますと「ドライブに行こうと皆で車に乗り込んだところ、車が動かない。キーは刺さっているか、燃料はあるかと、原因を探るうちに一人が気づく。なんと、運転座席にすわっている者（以下「運転手」と記す）が、アクセルペダルと間違えてブレーキペダルを踏んでいるのである。この時、「あ、ブレーキ踏んでる」と言うことは、その「一人」が車内の誰であってもできる。だが、「あ、ブレーキ踏んでた」と、「?た」の形で言うことは、基本的に、その「一人」が運転手の場合に限られる。いま話題になっている問題［車はなぜ動かないか］の「責任者」は、運転手だからである。」（近刊『発話の権利』まえがきより）発言権は、その場にいる人全員にあるというのが、これまでの考え方ですが、そうではないのではないか、というのです。この発話権という考えを提唱しているのは、京都大学の定延利之先生です。発話の権利という考えは、これまでの言語研究にはありませんでした。このような新しい、面白いテーマは、まだまだ、たくさんあります。会話に人々は普通に参加し、自由に議論を行っていくのが当然と思われています。でも、どうなんでしょうか。言語学は人は会話に参加する時の前提から研究し直すことができるのではないかと思います。

私は、面白い研究だと信じますが、現時点で、多くの人が共感を持って読んでくれるでしょうか。新しい人文学としての新しい言語研究が、研究者にとって読みたいと思ってもらえるのか、研究者以外の方でも読みたいと思ってくれるような読者を作れるのか、は大きな課題でしょう。これは、新しい人文学が、研究者だけではなく、多様な人が関心を持ちうる広い場所を作れるのか、という問いでもあります。

新しい人文学を支援するとともに、その新しい人文学を書籍というインターフェースに入れられるようにすること、従来の読者にも受け入れられるようにして、出版していくこと。これは将来の課題だと思います。このことを実現することが、ひつじ書房にとってのこれからの10年の課題です。もしかしたら、これまでの書籍は違う「書籍のようなもの」なのかもしれません。それを模索するのも、課題です。

＊

**（まつもと　いさお／ひつじ書房　編集長）**

# 新刊ダイジェスト

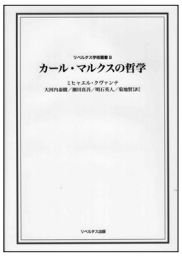
※価格は税込（消費税率8%）表示です。

## 『来訪神　仮面・仮装の神々』●保坂達雄・福原敏男・石垣悟著

日本各地に伝わる来訪神行事のうち10件が、去年11月、ユネスコ無形文化遺産に登録された。登録されるのを今か今かと待ち続けている関係者の表情がテレビに映しだされていたのは記憶に新しい。ところで、「来訪神」という用語は一般には馴染みがないのではなかろうか。今回初めて耳にした人もいるに違いない。新年や盆など年一回異界からやってきて幸福をもたらし又は災厄を祓う祖霊や神々を地元の住民が扮する行事。折口信夫が提唱した「まれびと」のことだといえば、腑に落ちる人もいよう。本書は、ユネスコ登録されることを前提に3人の民俗学者がそれぞれの視点から、すなわち、保坂氏が折口の「まれびと」論、福原氏が贈与互酬性、石垣氏が研究史の整理と展望について執筆している。今回の登録で世間に注目されるきっかけとなった半面、後継者不足、生活様式や住民意識の変化による存続の危機も抱えている。如何に後世へと伝承していくかが改めて問われる。

◆ 3,888円・A5判・273頁・**岩田書院**・東京・20181201刊・ISBN9784866020624

## 『カール・マルクスの哲学』●ミヒャエル・クヴァンテ著／大河内泰樹ほか訳




マルクス生誕200年を記念して翻訳された、現代ドイツのヘーゲル研究者であり、倫理学者であるクヴァンテによるマルクス論集。マルクスの初期テクストに多く見られる「類的存在」概念については、例えば『ユダヤ人問題によせて』に以下のようなよく知られた一節がある。「現実の個人的人間が抽象的な公民をみずからのうちに取り戻し、人間が個人的人間としてみずからの経験的な生活において、みずからの個人的労働において、みずからの個人的関係性において類的存在となったときにはじめて…ようやく人間的解放は成し遂げられるのである」。著者は、マルクスはこの「類的存在」概念を生涯手放すことがなかった、と言っている。後期の経済学批判においも、この初期の「類的存在」の形而上学が前提とされている、と。かく言う著者も、本書のマルクス理解においてこの「類的存在」概念を決して手放そうとしない。『資本論』等後期のテクストを考察する際にもヘーゲルとマルクスの間を自在に往き来しつつ常にこの「類的存在」に立ち戻るのである。

◆ 3,780円・A5判・179頁・**リベルタス出版**・東京・20190129刊・ISBN9784905208099

## 『ニッポン47都道府県正直観光案内』●宮田珠己著

日本全国津津浦々へまだ見ぬ景色を求めて旅を続ける宮田珠己。そんな彼が大胆にも日本全国の本当に見るべき観光地を一冊の本にまとめてしまいました。選んだ基準はとにかく見るに値するすごいものであること。グルメも温泉も関係ない。そんなものは今どき少し出かければいくらでも巡り合うことが出来ますからね。そういう意味では「真にダサいのは、実は東京都だった」ということになったりします。そのためか東京都の章の半分以上は伊豆諸島の紹介に。観光資源に恵まれていないかに見える愛知県は、いわゆる「B級スポット」的な場所が数多く存在し、観光地としてのポテンシャルはかなり高い。そして観光地界のラスボスともいえる京都府をどんな角度から取り上げるかという点も見どころです。47都道府県には未だ私たちの知らない面白いものが何と沢山あることか。宮田流に再編成された日本観光案内を読むうちに、今すぐにでも出かけたくなってしまうこと必定です。

◆ 1,782円・四六判・293頁・**本の雑誌社**・東京・20190130刊・ISBN9784860114237

## 『くらしの中のトイレの歴史』●塩浦信太郎著

ある日、女の子がトイレに座っていると、小さなトイレの神様が現れて、トイレの歴史を語り始めた。大昔は野原や川がトイレであり、場所も決まっておらず、あちこちで“ポットン”。初めて小屋のトイレが出来たのは今から1400年ほど前で、平安時代になると持ち運び可能なトイレが生まれた。江戸時代にはウンチやオシッコが肥料として売れ、武田信玄はトイレ好きで有名で、なんと六畳間のトイレで読書したり、戦略を練っていた。そんなエピソードをはじめ、昔の人はどうやってお尻を拭いていたか、飛行機や電車、宇宙ステーションのトイレはどうなっているかなど、素朴な疑問にも答えてくれる。“ウンチは健康の目印だからよく見てね！”とメッセージを残してトイレの中に消えていった神様に女の子は大興奮！　今でこそ日本のトイレは臭いもなく快適だが、歴史を知ればいかに大事な場所かがわかる。世界を旅するイラストレーターの著者が楽しく教えてくれるためになる絵本。

◆ 1,620円・B5判・31頁・**ポトス出版**・東京・20190117刊・ISBN9784901979436

## 『図説・17都県放射能測定マップ＋読み解き集』●みんなのデータサイトマップ集編集チーム著

東京電力福島第一原発事故による放射能汚染の実態を測定データによって可視化し、後世に記録を遺すことを目的にネットワーク型団体として設立された「みんなのデータサイト」が、2014年10月から2017年9月にかけて、延べ4千人の市民の協力のもとに、3400ヶ所以上で採取・測定した東日本土壌ベクトル測定プロジェクトの結果である。政府等の測定は、地点決定方法といって限られた地域で行われ、農地土壌は表層部分が捉えられない15㎝の深さで採取される。プロジェクトは、実際に市民が知りたいと願っている子どもの遊び場や身近な生活の場を選び、チェルノブイリと同じ深さの5㎝で採取、空間線量もできる限り測定した。そのデータを県別にマップに落として汚染状況を分析し、分かりやすく解説している。併せて農産物や魚介、野生鳥獣肉の汚染度も解析する。こうした継続的で正確なデータの公開なくして、真の解決には近づけないことを痛感させられる。

◆2,500円・A4判・199頁・**みんなのデータサイト出版**・福島・20181113刊・ISBN9784991042706

---

## 地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

**2019年2月1日～28日**
**流通センター着**

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

## 【雑誌】

◆**あおもり草子**　No.256　佐藤　史隆編　A4　48頁　600円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-21686-1　19/02

◆**北方風土**　第77号　北方風土社編　A5　172頁　2160円　イズミヤ出版［秋田］978-4-503-21690-8　19/01

◆**会津人群像**　No.38　阿部　隆一編　B5　227頁　1620円　歴史春秋社［福島］978-4-89757-943-6　19/01

◆**SPRIDE**　vol.29　2019年3・4月号　渡辺　直明編　A4　112頁　972円　下野新聞社［栃木］978-4-88286-716-6　19/02

◆**GREEN REPORT**　470　2019年2月号　廣瀬　仁編　A4　192頁　2800円　地域環境ネット［埼玉］978-4-909864-02-4　19/02

◆**子どもと読書**　434号　2019年3・4月号　親子読書地域文庫全国連絡会編　A5　44頁　550円　親子読書地域文庫全国連絡会［神奈川］978-4-907376-34-5　19/02

◆**調査情報**　No.547　2019年3－4月号　岩城　浩幸編　257mm × 160mm　96頁　789円　TBSテレビ［東京］978-4-906908-76-9　19/03

◆**AXIS**　Vol.198　2019年4月号　石橋　勝利編　A4　128頁　1800円　アクシス［東京］978-4-503-21696-0　19/04

◆**Be！**　134号　No.162　今成　知美編　A5　107頁　864円　アスク・ヒューマン・ケア［東京］978-4-909116-10-9　19/03

◆**児童文芸**　2019年2－2019年3月号　高橋　うらら編　A5　112頁　864円　あるまじろ書房［東京］978-4-904387-18-4　19/02

◆**地方史研究**　第397号　地方史研究協議会編　A5　155頁　1234円　岩田書院［東京］978-4-87294-997-1　19/02

◆**仏事**　No.221　2019年2月号　奥村　昇編　A4　94頁　1620円　鎌倉新書［東京］978-4-503-21681-6　19/02

◆**月刊住職**　No.243　2019年2月号　矢澤　澄道編　A5　193頁　1404円　興山舎［東京］978-4-908027-60-4　19/02

◆**子どもの文化**　No.575　2019年3月号　片岡　輝編　A5　47頁　313円　子どもの文化研究所［東京］978-4-503-21697-7　19/03

◆**the座**　No.99　高橋　彩子編　B5　40頁　1000円　こまつ座［東京］978-4-503-21688-5　19/02

◆**茶道の研究**　No.759　2019年2月号　三徳庵編　A5　84頁　540円　三徳庵［東京］978-4-503-21676-2　19/02

◆**東京かわら版**　No.547　2019年3月号　佐藤　友美編　204mm × 108mm　158頁　500円　東京かわら版［東京］978-4-503-21692-2　19/02

◆**俳句四季**　No.499　2019年3月号　西井　洋子編　松尾　正光編　B5　160頁　1000円　東京四季出版［東京］978-4-503-21687-8　19/02

◆**みんなの図書館**　No.503　2019年3月号　図書館問題研究会編　A5　72頁　810円　図書館問題研究会［東京］978-4-503-21683-0　19/02

◆**おりがみ**　No.524　2019年4月号　日本折紙協会編　A4　51頁　786円　日本折紙協会［東京］978-4-86540-073-1　19/03

◆**海運**　No.1097　2019年2月号　日本海運集会所編　A4

# 売行良好書　期間：2019年2月15日～3月14日

## ［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『図説・１７都県放射能測定マップ＋読み解き集』2,500円・みんなのデータサイト出版　(2)『東京の森のカフェ』1,404円・書肆侃侃房　(3)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(4)『よみきかせのきほん』810円・東京子ども図書館　(5)『大学による盗骨』1,944円・耕文社　(6)『幸せについて』1,080円・ナナロク社　(7)『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』1,944円・アスク・ヒューマン・ケア　(8)『ニッポン４７都道府県正直観光案内』1,782円・本の雑誌社　(9)『ブックトークのきほん』648円・東京子ども図書館　(10)『踏み絵とガリバー』2,052円・弦書房　(11)『東都寄席演芸家名鑑』2,000円・東京かわら版

## ［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『昭和プロレスマガジン　４８』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『東都寄席演芸家名鑑』2000円・東京かわら版　(3)『本の雑誌　４３０号』720円・本の雑誌社　(4)『東京かわら版　３月号』500円・東京かわら版　(5)『図説・１７都県放射能測定マップ＋読み解き集』2500円・みんなのデータサイト出版　(6)『パズル通信ニコリ Ｖｏｌ．１６６』972円・ニコリ　(7)『中国銀河鉄道の旅』1944円・本の雑誌社　(8)『寺内正毅と近代陸軍』2376円・弦書房　(9)『ニッポン４７都道府県正直観光案内』1782円・本の雑誌社　(10)『近藤聡乃エッセイ集 不思議というには地味な話』1404円・ナナロク社

## ［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『図説 １７都県放射能測定マップ＋読み解き集』2500円・みんなのデータサイト出版　(2)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(3)『ＮＡＧＩ　ＶＯＬＵＭＥ７６』700円・月兎舎　(4)『シュルレアリストのパリガイド』2700円・エディションイレーヌ　(5)『大学による盗骨』1944円・耕文社　(6)『調査されるという迷惑』1080円・みずのわ出版　(7)『脈　１００号』1404円・脈発行所　(8)『奥多摩登山詳細図（東編）』950円・吉備人出版　(9)『呼吸にまつわるふか～い話』1080円・不知火書房　(10)『新訂　ジュニア版　琉球沖縄史』1620円・編集工房東洋企画

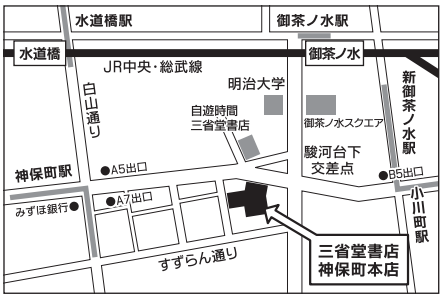
以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

## トピックス ―― ★★★

▼2009年に第34回木村伊兵衛写真賞を受賞を受賞した写真集【浅田家】（浅田政志著／赤々舎刊／ISBN: 978-4-903545-26-4／本体2600円）が映画化されることになりました。小説や漫画ではなく、写真集が映画の原作となるというのは意外かもしれませんが、この写真集を見ていただければそれも納得できるのではないかと思います。久しく品切でしたが、この機会に重版され、現在在庫あります。映画の原案としてもうひとつあげられているのが、浅田氏の【アルバムのチカラ】（藤本智士氏との共著／ISBN：978-4-86541-028-0／本体1600円）という作品ですが、こちらは、東日本大震災で津波被害にあった写真やアルバムを復元して持ち主に返す活動をした人たちの記録です。現在品切中で5月に増刷されるとのこと。

《祝 重版７刷！　写真集のベストセラー【浅田家】2020年 映画化決定！＜主演：二宮和也（嵐）共演：妻夫木聡＞東宝系にて全国公開！！父、母、兄、そして弟（写真家本人）の４人家族が、ラーメン屋や消防士や極道一家など、さまざまなシチュエーションになりきって作り上げた記念写真の数々。そして、撮影の前後の思い出のシーンを再現した"あるある"な家族写真。すべてが浅田家の地元の三重県でいろいろな方の協力を得ながら撮影され、７年もの月日がかけられた「浅田家」特製記念写真は、「演出」の見事さとともに、家族の関わりの強さや記念写真がもたらす力にあらためて驚かされる。「浅田家」の写真、それは撮影日が記念日となる記念写真だ。家族全員の休みを合わせ、場所を借り服を決め、シーンをみなで考え、タイマーのスイッチを押す。待っていてもなかなか来ない記念日を、写真を通じて作り上げていく。そのとき写真は家族が集まるきっかけであり、記録でもある。それは写真が本来もつ力を新たに追求した「記念写真」といえるだろう。》

（赤々舎HP【浅田家】紹介文より）

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。